

# 外来診療担当医師表

令和3年4月～

時間	診察室	日	月	火	水	木	金	土
午前	診察室 1		整形リハビリ科 ひさえ 久重	整形リハビリ科 ひさえ 久重	一般・糖尿病内科 よしなが 吉永	整形リハビリ科 ひさえ 久重		整形リハビリテーション科 熊本大学病院 整形外科医師
	診察室 2		一般内科 副院長 まつ 松田	一般・糖尿病内科 副院長 いさみ 勇	一般・糖尿病内科 副院長 いさみ 勇	一般・消化器内科 消化器内科部長 なか お 中尾	一般内科 副院長 まつ 松田	呼吸器内科 (1・2・5週) いま むら 今村 (3・4週) いち やす 一安
	診察室 3				循環器内科 ふた ぐち 二口		脳神経内科 脳神経内科部長 よね もち 米持	一般・糖尿病内科 代謝内科担当医師
	診察室 5		一般・消化器内科 診療部長 さ とう 佐藤	呼吸器内科 えび はら 蛭原	呼吸器内科 えび はら 蛭原	呼吸器内科 えび はら 蛭原		
	診察室 7		一般・糖尿病内科 院長 うえ はら 上原	一般・糖尿病内科 院長 うえ はら 上原	一般・糖尿病内科 院長 うえ はら 上原	一般・糖尿病内科 院長 うえ はら 上原		
午後	診察室 1		整形リハビリ科 ひさえ 久重	整形リハビリ科 ひさえ 久重	一般・糖尿病内科 よしなが 吉永	整形リハビリ科 ひさえ 久重	一般・消化器内科 総院長 いけ い 池井	<p><b>令和2年1月から 土曜日は午後休診と なりました。</b></p> <p>外来診療時間 午前診療 9:00～12:30 (受付は12:00まで) 午後診療 13:30～17:30 (受付は17:00まで) ※なお、急患はこの限りでは ございません。</p>
	診察室 2		呼吸器内科 いち やす 一安 (14:00～16:00)	一般・消化器内科 消化器内科部長 なか お 中尾	一般・消化器内科 診療部長 さ とう 佐藤	一般・糖尿病内科 副院長 いさみ 勇	脳神経内科 脳神経内科部長 よね もち 米持	
	診察室 3		一般内科 担当医師		脳神経内科 脳神経内科部長 よね もち 米持			

※内視鏡外来(月～金曜の午前・完全予約制)(緊急時を除く)

訪問診療 (午後)	なか お 中尾	院長 うえ はら 上原	さ とう 佐藤	院長 うえ はら 上原	院長 うえ はら 上原
内視鏡	なか お 中尾	さ とう 佐藤	なか お 中尾	さ とう 佐藤	さ とう 佐藤

予約の状況や  
検査・処置等により  
順番が前後したり  
時間がかかる  
ことがあります。  
あらかじめ  
ご了承ください。



# くまもと成仁病院



〒861-8041 熊本市東区戸島2丁目3番15号  
電話 096-380-7011  
FAX 096-380-9223  
ホームページ <http://www.sejinkai-net.jp>

第50号  
発行日  
令和3年7月1日



ネモフィラ くじゅう花公園  
Photo by 村田 和佳(リハビリ部)

お問い合わせは くまもと成仁病院 (外来受付) Tel.096-380-7011

## お知らせ

詳細につきましては当院総務部までお問い合わせください  
(お問い合わせ先 総務課 ☎096(380)7011)  
例年、地域行事としまして、6月に健康祭り、  
8月に夏祭りを開催していましたが、  
今般の新型コロナ感染症拡大に伴い、  
昨年に引き続き中止と致します。

## 編集後記

本年度より広報部が  
新しい体制となりました!  
読んで楽しく、  
ためになる紙面づくりに  
努めてまいります。  
よろしくお願いいたします。



## 目次

- 院長挨拶、法人理念・基本方針 2
- 新任医師紹介 …… 3
- Drコラム …… 3
- ユニフォーム紹介(1Fフロア) 4
- 2020年度 入院実績報告 …… 5
- 糖尿病・健康教室 …… 6
- びたみんな通信 …… 6
- ささえりあ託麻 引っ越し …… 7
- 薬のよかハナシ …… 7
- 外来診療担当医師表 …… 8
- お知らせ …… 8



理事長・院長  
上原 昌哉

## ごあいさつ

今年は全国的に桜の開花が早く、熊本でも4月に入るとすでに葉桜のところも出てきました。コロナ禍では皆様方も、花見さえ自粛されていることだと思いますので、来年こそは、地域の方々と当院の職員とでお花見ができれば良いと思っております。

3月中旬から医療従事者のコロナワクチンの接種が始まっており、私もすでに2回接種を行い、当病院職員全てが5月末でワクチン接種が無事終了しております。それと並行して、当院でも65歳以上の地域の方々の接種も開始しております。ご不明な点等ありましたらお気軽にご相談下さい。

コロナウイルスに関しては、変異ウイルスの流行も相まって全国的に第4波が始まっています。会食の際は3密を避けて、ご家族だけでもしくは小人数で十分感染対策を講じられた店舗での静かな会食を心掛けたいものです。当院では昨年中は抗原検査を院内で行い、PCR(拡増幅法)につきましては院外に依頼しておりましたが、本年2月からはアボット社製の遺伝子増幅検査装置「ID NOW™」を導入致しました。NEAR法と呼ばれる遺伝子検査で、PCR法と同様に厚生労働省の承認が得られている検査装置です。わずか15分で陽性・陰性の結果が出ますので、発熱、味覚障害などコロナウイルス感染症疑いの際は、ぜひご利用下さい。

策を講じられた店舗での静かな会食を心掛けたいものです。当院では昨年中は抗原検査を院内で行い、PCR(拡増幅法)につきましては院外に依頼しておりましたが、本年2月からはアボット社製の遺伝子増幅検査装置「ID NOW™」を導入致しました。NEAR法と呼ばれる遺伝子検査で、PCR法と同様に厚生労働省の承認が得られている検査装置です。わずか15分で陽性・陰性の結果が出ますので、発熱、味覚障害などコロナウイルス感染症疑いの際は、ぜひご利用下さい。

特定医療法人  
成仁会  
理念

一、 私達は、わが国長寿社会の根幹をなす医療・看護・介護の限りなき充実発展を希求する。

一、 私達は、崇高な使命に深く想いをいたし、自からの職務に誇りと自信を持ち絶えまざる努力を傾注する。

一、 私達は、療養専門の病院(施設)としての役割を深く認識し、患者様に快適な療養環境と安らぎの場を提供して社会復帰を促進し、地域社会の健全な発展のために、献身的に貢献する。

一、 常に患者(利用者)様 第一主義に徹し信頼と安心感の獲得を追求する。

一、 自学研鑽の気風を促進して職務遂行能力を向上させ、医療の質を始めとする患者(利用者)様サービスの充実を追求する。

一、 療養専門の病院(施設)として、急性期病院との緊密な連携のもと治療の継続性を保持しつつ、患者(利用者)様の自助努力と相まって円滑な社会復帰を追求する。

特定医療法人  
成仁会  
基本方針

## 新任医師紹介

①最終学歴 ②専門科目 ③趣味・特技等 ④今後の抱負等



副院長  
一般内科・糖尿病代謝内科 **松田 浩治**

①熊本大学医学部医学科 平成3年卒

②糖尿病内科、代謝・内分泌内科

③読書(推理小説)、スポーツ全般

④総合内科、糖尿病代謝内科として仕事をしてきました。超高齢化社会を迎える状況下で当院の特色を生かし、患者様・地域の住民の皆様の役に立てればと考えています。



Dr. Column  
ドクター・コラム

## レビー小体型認知症について

現在、人口の約30%が65歳以上と日本は超高齢化社会であり、今後も割合が増えていくことが予想されています。そして65歳以上の約15%が認知症であると考えられています。当然ながら認知症の割合も増えていくことが予想されます。認知症について理解することは今後重要なことと考えられます。認知症で最も多いのがアルツハイマー型認知症(約68%)、次いで脳血管性認知症(約20%)、そしてレビー小体型認知症(4%)とされています。今回はレビー小体型認知症についてお話しします。



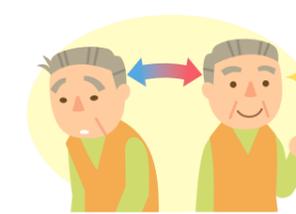
脳神経内科  
米持 康寛

レビー小体型認知症は、レビー小体という老廃物が脳神経の中に溜まっていき、脳神経が機能しなくなることで発症すると言われています(このレビー小体はパーキンソン病の原因でもあります)。レビー小体がなぜできるのか、なぜ神経細胞の中で溜まっていくのかはまだ原因がわかっていません。

レビー小体型認知症の特徴は、①パーキンソン病の症状(動きが鈍い、急に動きが止まる、手足の関節が固い、ゆっくりしているときに手足がふるえる など)と認知症が一緒にある、②幻覚(人物、小動物、虫など、漠然としたものではなくはっきりとしたもの)を伴うことが多い、③認知機能障害の顕著な変動(正常な時と異常な時がはっきりしている)が特徴的と考えられます。

治療ですが、根治治療は確立されてなく、認知機能低下に対してはアルツハイマー型認知症に使用される薬での治療、パーキンソン病と同様の症状に対してはパーキンソン病治療薬で治療を行います。

もし、レビー小体型認知症かもしれないと思うときは、脳神経内科または精神科の受診をお勧めします。根本的な治療は現在ありませんが、少しでも家族と自宅での生活を長く続けていけるような手助けはできると思います。



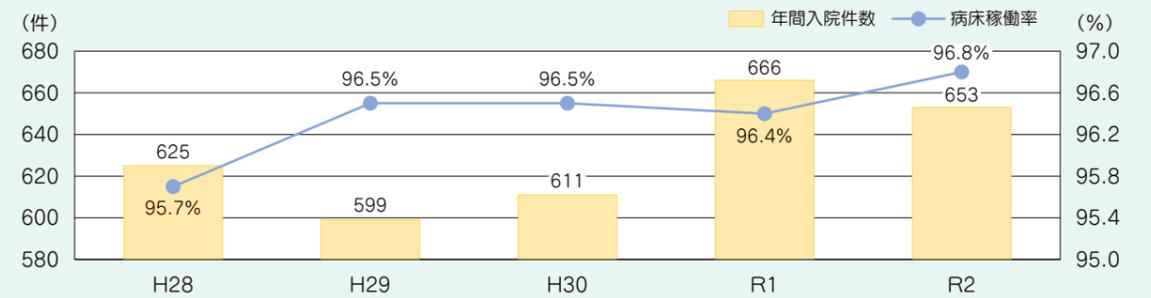
# ユニフォーム紹介



# 2020年度 入院実績報告

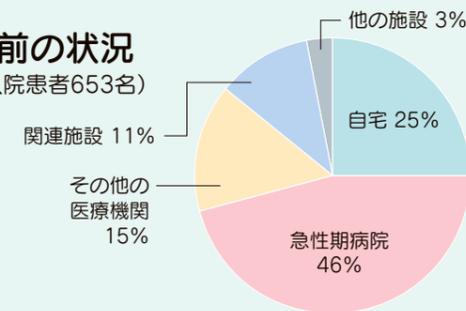
- ・医療病棟180床(地域一般病棟1:37床 回復期リハビリテーション病棟1:50床 医療療養病床:93床)
- ・介護保険病床42床(介護医療院:42床)

## 過去5年間の年間 年間入院受入件数と病床稼働率



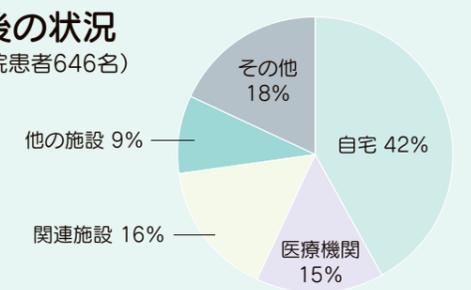
## 入院前の状況

(年間入院患者653名)



## 退院後の状況

(年間退院患者646名)



当院の病床は医療病棟と介護医療院を合わせて222床となりますが、病床稼働率はH29年より増加傾向にあり、過去4年間の病床稼働率は平均で96.6%(214.4名/日入院患者数)となっています。

入院は令和2年度、年間653名(54.4名/月平均)で、急性期病院からの入院が約半数となっており、特にリハビリや治療、療養継続目的での入院の方が多くなっています。退院については、年間646名(53.8/月平均)で、自宅退院が一番多く42%、次いで施設が25%となっており、施設の中でも関連の特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院が16%と増加傾向にあります。

## 回復期リハビリテーション病棟実績 病床稼働率・在宅復帰率



回復期リハビリテーション病棟(50床)は、病床稼働率は年間平均98.7%(49.4名/日平均)でほぼ満床に近い状況で経過しており、リハビリニーズの高い入院患者様が多い傾向にあります。リハビリは、脳血管疾患や整形外科疾患を中心に、PT(理学療法)、OT(作業療法)、ST(言語療法)を患者様の状況に応じて実施しております。在宅復帰率は自宅以外にも有料老人ホーム等の居住系の施設入所の方も含まれており、年間平均で85.5%と高い数値となっています。

# 糖尿病・健康教室

「健康教室」は平成16年に「生活習慣病教室」としてスタートしました。第1回目は血糖測定会だと記憶しています。塩分を測る道具を使って味噌汁の塩分を調べたり、手洗い実習ではブラックライトを使って洗い残しを確認したりしました。

「健康教室」と名前を変えてからは、病気のことだけでなく、介護保険や健診などの話を医師や専門職によりさせて頂きました。管理栄養士によるバイキング形式で学ぶカロリー計算、理学療法士による体操は、人気の高い講座でした。

地域の皆様の健康に役立つ情報を発信したいとの思いで続けてきた教室でしたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、感染予防のための休講を余儀なくされました。早いものであれから1年が過ぎ、感染予防の意識も高まり、ワクチン接種も始まり、明るい兆しが見え始めたところでしたが、新たな変異株が出現し、感染状況がどのようになるか分からなくなりました。

先の見通しが見えない不安定な状況ですが、スタッフ全員で「withコロナ」のもと、みなさんの健康を保つために、さまざまな開催方法を検討しています。また、みなさんにお会いすることはできませんが、またお会いできる時には、パワーアップした内容を提供できればと考えております。また会える日までお元気にお過ごしください!!



## びたみん通信

VOL. 25

### 新型コロナウイルス感染症に負けない食事とは!?

新型コロナウイルスに負けないためには、日頃の感染対策はもちろんのこと、ウイルスに対する抵抗力を維持強化させることが大切です。このことを「免疫」といい、免疫力が低下すると感染症にかかりやすくなります。原因には、ストレス、疲労、睡眠不足などがありますが、その中でも栄養と食事は重要です。免疫に関する栄養素にはエネルギーやたんぱく質などたくさんの種類があります。免疫を維持するためにはたくさんの栄養素が関わっており、ひとつの栄養素を摂ればよいのではなく、いろいろな食品からバランスよくとることが大切なことがわかります。免疫力を維持・高めるための食事のポイントはバランスの良い食事が基本となります。コロナ禍でさまざまなストレスを抱える今だからこそ、日頃の食生活を見直し、コロナに負けないカラダを作りませんか。

<b>【主食】</b> 主にエネルギー源となる料理で、ごはん・パン・麺がメインの料理です。糖質が主成分です。摂取するエネルギーの半分は主食からとります。	<b>【主菜】</b> 主にたんぱく質源で、肉類、魚類、卵類、大豆製品が使われているメインのおかずのことです。	<b>【副菜】</b> 主に、ビタミン・ミネラル・食物繊維などの供給源で、野菜、いも、海藻、きのこ、こんにゃくなどが主材料のおかずです。
+		
<b>【もう一品】</b> 牛乳・乳製品、果物などの【もう一品】を必要に応じて加えて、不足しがちな栄養素や水分を補ったり、献立に彩りや楽しさを添えたりする効果があります。		

主菜…たんぱく質は筋肉・血液・骨や内臓を作るのに重要です。免疫細胞を作る役割も果たしていますのでしっかりととりましょう。

主食…からだのエネルギー源になります。

副菜…副菜にはビタミン類やミネラルが豊富に含まれています。疲労回復や、体調を整える役割をします。

果物・乳製品…果物には疲労回復や免疫力を高めてくれるビタミンCが含まれるものが多くあります。ヨーグルトなどに含まれる乳酸菌は腸内環境を整え、免疫力を高めてくれます。

#### 免疫に関わる栄養素

エネルギー、たんぱく質、n-3系脂肪酸、食物繊維、ビタミンA、ビタミンB1、B6、B12、葉酸、パントテン酸、ナイアシン、ピオチン、ビタミンC、D、E、セレン、亜鉛、銅、鉄、乳酸菌

# ささえりあ託麻よりお知らせ

令和3年3月18日にくまもと成仁病院内にあった事務所が右記へ移転しました。今後も地域と一緒に活動をしていきますので宜しくお願いします。



### 新住所・電話・FAX

〒861-8043 熊本市東区戸島西2丁目6-132  
 電話 (096)282-8249  
 FAX (096)282-8259

※メールアドレスは変更ありません

## 薬のよかハナシ vol.10 新型コロナワクチン接種

### ワクチンのことを正しく知ったうえで、接種を判断しましょう!



高齢者を対象とした新型コロナワクチンの接種がいよいよ開始されます。コロナウイルスに感染した場合に、発症や重症化を予防する高い効果が期待されています。一方で、副反応に対する扇情的な報道などの影響でワクチンに対する懐疑的な声も聞かれます。確かに、注射による痛みや倦怠感、アレルギー反応などの副反応が一定数報告されていることは事実であり、多くの方が不安に思う気持ちは良くわかります。しかし、薬が持つ「二面性」について、私達は正しく理解しておく必要があります。

薬には本来の狙い通りの「作用」とともに、期待していない望ましくない作用である「副作用」が必ずあります。コロナワクチンについても、残念ながら副反応(副作用)をなくすることは困難です。「薬(クスリ)を使う」というのは「副作用の“リスク”を背負う」ということです。文字通り「薬(クスリ)とリスク」は裏表の関係なのです。現時点で国は、「科学的データ(治験)に基づき、ワクチン接種のメリット(効果)はリスク(副反応)を上回ると判断」し、接種を強く推進しています。短期間で他者に感染を広げない状態(集団免疫)をつくるという観点からも、積極的な接種を呼びかけているのです。ただし、注意しなければいけないことは、リスクの程度が、年齢、基礎疾患、併用薬などによって人それぞれ異なる点です。したがって、ワクチンの接種によって得られるメリットと副反応などのリスクを理解した上で“天秤”にかけ、「打つ」か「打たない」かを、ひとりひとりが判断しなければなりません。そのためには、ワクチンについて正しく知ることが大切です。接種会場に行く前に、かかりつけ医師などとよく相談し、不安をしっかりと解消しておきましょう。